



四日市看護医療大学

四日市看護医療大学学報 No.5

[発行日]2011年12月20日 [発行]四日市看護医療大学 庶務課
〒512-8045 三重県四日市市萱生町1200 TEL.059-340-0700 FAX.059-361-1401 <http://www.y-nm.ac.jp/>

大学院が向かう道— —轍としてつなげたいこと

研究科長 鈴木 敦子



四日市看護医療大学大学院が開設されて、はや半年が過ぎました。開設準備に追われた2年間の日々でしたが、10月29日に、開設記念講演会も開催され、聖路加看護大学の井部俊子学長から大学院が目指す方向の具体的な示唆もいただきました。私も、この機会に、この大学院が轍としてつなげたいことをまとめてみたいと思います。

今世紀は、〈共生の時代〉、つまり〈助合いの時代〉といわれます。このように特徴づけられることの背後には、これまでのものの見方と現在のものの見方に、根本的な違いがおこっているように思います。そして、そこには既成のさまざまな理論や学問や方法と現実とのずれ、とくに、もっともパワフルで厚く人々に信頼されてきた〈近代科学〉に対する疑問が生じていることがあるように思います。

過去四半世紀、私たちは〈進歩〉という旗印のもとに、高度経済成長の波のなかを疾走してきました。しかし、いまや私たちは、「何をもって進歩とするのか」、「どれだけ進歩するのか」ということを問おうとしています。さらにまた、これらの問いは私たち一人ひとりにかかっていること、つまり「一人ひとりの内面の進歩にしか存在しないのではないか」と気づきはじめていま

す。これは、欧州の社会が半世紀以上前に指摘しはじめたことへの気づきです。

このような社会にあっては、〈生と死への関心〉、〈日常性、つまり生活への関心〉、〈個別的・身辺的なものへの関心〉が増します。また、〈身体としての快適性〉、〈美しさの追求〉、〈情感や人情〉、〈気分〉、〈心〉が重視されます。このことは、とりまなおさず看護的視点が大切になる時代の到来なのです。さらにいえば、病む人や家族が病気や苦難にたち向かえるよう支援するばかりでなく、この体験のなかに意味をみいだすような支援が求められていることなのです。

この方向づけには、私たちには、健康や病気、とくに病気も「自己実現」の体験となりうるという確信が前提として必要です。それは難しい課題であるとの認識が必要です。しかし、時代は、病む人の〈存在〉と〈発達〉につながる看護の提供を求めてくることは明らかです。

哲学者 中村雄二郎氏が、21世紀に持ち込める唯一のものとして、「助ける・助けられる」ことへの価値の転換をあげています。彼のいう客観性と論理性と普遍性に基いてた〈北型の知〉は、科学的な学問としての〈医学〉を発達させました。一方、「開かれた感受性」をもつ〈南型の知〉は、古来から〈医療〉と呼ぶべき文化を守ってきたことを重視しています。先に述べたような価値観は、まさに〈南型の知〉のなかにこそ存在しているものです。

中村のいう〈医療〉とは、人間相互行為で、それはコスモロジー・シンボリズム・パフォーマンスという三つの要素から成り立っています。コスモロジーとは有機的空間、シンボリズムは象徴というよりは物事の多義性、パフォーマンスは身体的相互行為です。身体的相互行為のない〈医療〉というのはいり得ません。〈医療〉は、ひとつの有機的空間のなかで、物事の一義的ではない多義的表現を通し、互いの身体性を含んだコミュニケーションをします。つまり、これらはいずれも普遍性・論理性・客観性とまったく対立したものなのです。

このような姿勢・目指す方向を大切にしながら、その姿勢が轍としてつなげることのできる学生集団・教員集団でありたいと願っています。

新任教員紹介

教授

- 氏名** 藤村 龍子 (フジムラ リュウコ)
 - 専門領域** 成人看護学:急性看護・クリティカルケア、周手術期看護、看護教育学、看護理論
 - 研究テーマ** クリティカルケア看護分野で働く看護師の自律性と倫理的意思決定に関する研究
看護診断・看護介入・看護成果のリンケージ
 - メッセージ** 看護の道を選択したことは、やがて人生を豊かに生きる意味を見出すことに繋がるでしょう。
-
- 氏名** 塚越 フミエ (ツカゴシ フミエ)
 - 専門領域** 成人看護学
 - 研究テーマ** 慢性病を持つ人への看護、糖尿病をもつ人のケア構築
 - メッセージ** 看護への道のりは平坦ではありませんが、あきらめずに根気強く学び続けることが何より大事だと思います。
-
- 氏名** 中島 通子 (ナカシマ ミチコ)
 - 専門領域** 母性・助産看護学
 - 研究テーマ** 不妊・妊婦支援・産婦支援・父性
 - メッセージ** 一緒に学修しましょう。

講師

- 氏名** 飯田 加寿子 (イイダ カズコ)
 - 専門領域** 小児看護学
 - 研究テーマ** 重症心身障害児(者)施設における事故防止対策に関する研究
 - メッセージ** 共に学んでいきましょう。
-
- 氏名** 押本 由美 (オシモト ユミ)
 - 専門領域** 基礎看護学
 - 研究テーマ** 褥瘡に関する研究、看護技術の科学的検証
 - メッセージ** 学生とともに楽しく学び、探究していきたいと思ひます。
-
- 氏名** 大久保 仁司 (オクボ ヒトシ)
 - 専門領域** 成人看護学・慢性期
 - 研究テーマ** がん患者の看護に関する研究、がん患者の家族の看護に関する研究、看護教育に関する研究
 - メッセージ** 「看護」とは何だと思ひますか。その答えを見つかるお手伝いをさせていただきます。共に考えていきましょう。

助教

- 氏名** 小寺 直美 (コテラ ナオミ)
- 専門領域** 成人看護学
- 研究テーマ** 循環器疾患患者のQOL
看護職のキャリアに関すること
- メッセージ** 共(友)に学び、共に育っていきましょう。

准教授

- 氏名** 高山 直子 (タカヤマ ナオコ)
 - 専門領域** 基礎看護学
 - 研究テーマ** 肥満と感情の研究、高齢者・青年期学生の睡眠の研究
 - メッセージ** 看護は奥深いと思ひますので、共に学べる機会を大切に前に進みたいと思ひます。
-
- 氏名** 畑中 純子 (ハタナカ ジュンコ)
 - 専門領域** 産業看護学
 - 研究テーマ** 職場復帰および適応への支援、産業看護職の継続教育(保健面接・事例検討など)
 - メッセージ** 働く人びとが働くことを通じて豊かに生きられるように支援できることを目指しています。
-
- 氏名** 小松 美砂 (コマツ ミサ)
 - 専門領域** 老年看護学
 - 研究テーマ** 高齢者の環境への適応
認知症高齢者とのコミュニケーション
 - メッセージ** 高齢者の言葉に耳を傾け、学び、成長していきましょう。

四日市看護医療大学・大学院教職員一覧

平成23年12月1日現在

- 教員**
(役職者)
学 長:河野 啓子 副学長・企画部長(兼):丸山 康人
学科長・学生支援センター長(兼):宮崎 徳子
研究科長:鈴木 敦子 図書館長:山崎 正人
教 授:赤井由紀子 近藤 信子(特任) ダニエルカーク 塚越フミエ 内藤 雅子(特任)
中島 通子 野口 多恵子 濱田 章子 藤村 龍子 山本 美佐子
准教授:岩本 淳子 牛之濱 久代 大平 肇子 小笠原 ゆかり 後藤 由紀 小松 美砂
杉崎 一美 高山 直子 豊島 泰子 萩 典子 橋爪 永子 畑中 純子 東川 薫
講 師:飯田 加寿子 大久保 仁司 押本 由美 大西 信行 加藤 睦美 栗原 喜代子
助 教:小寺 直美 佐藤 光年 中神 克之 日比 千恵 養田 さゆり
助 手:川島 珠実 福田 弘子 水野-ルイス 里美
- 職員**
事務局
事務局長:松浦 稔 事務局次長:三宅 真一
庶務課長(兼):三宅 真一 会計課長:鈴木 克英
庶務課主任:渡辺 正生 庶務課:市岡 哲治 会計課:川辺 照美
学生支援センター
次 長:中村 博 大学院担当事務長:中山 亮二
教学課長・秘書担当課長(兼):小谷 雅彦 教学課主任:松永 容子
教学課:渡邊 雅恵 東 陽 信 江 間 美 絵
入試広報室
入試広報課長補佐:山口 鎮 入試広報課主任:長谷川 誠
入試広報課:近藤 千尋
企画部企画課
企画課長補佐:岩谷 直樹 企画課:土屋 美雪
図書館図書課
図書課長(兼):中村 博
図書課:後藤 真由美 山崎 愛 渡部 由美子 辻 慎貴子

平成23年度 入学式



平成23年4月1日(金) 本学5期生及び大学院1期生の入学式が挙行されました。四日市市副市長をはじめ、四日市市議会議長、市立四日市病院院長、同副院長、三重県看護協会専務理事の来賓の方々にもご臨席いただき、教職員、保護者の方々も参加のもと学部生118名、大学院生10名の新入生が新しい学生生活へとスタートをきりました。

冒頭には、過日の東日本大震災で被害に遭われた方々へ黙祷がさざげられました。式は、河野学長からの入学許可宣言にはじまり、来賓の方々からのご祝辞をいただき、学部生代表の上村早紀さん、大学院生代表の田中孝子さんがそれぞれ、これからの学生生活に向けての決意を宣誓し、無事終了いたしました。

教員の声



地域看護学 講師 栗原 喜代子

今年3月、本学の1期生122名が無事に卒業し、巣立っていきました。現在の大学の様子をみてみると、2期生(4年生)は国家試験に向けて猛勉強中、3期生(3年生)は各施設での実習に猛チャレンジ中、4・5期生(2・1年生)は看護の基礎的な学びの猛トレーニング中です。このように、入学してからの4年間、様々な課題を次々とこなしながら、高い階段を一步步乗り越えている学生達の姿があります。

教員として一人ひとりの学生を見てみると、その成長ぶりが、日に日に変化していくのを目の当たりにします。これは本当にうれしく、教員としての醍醐味です。まるで、幼虫が脱皮し、最後はきれいな蝶となっていく姿を目の前で見せてもらえるのですから…。

最近、卒業した1期生がたくましい姿となって私の研究室を訪ねてくれます。これからも、教員として、脱皮していく姿をしっかり見守っていきたいと思ひます。

新入生歓迎会 学友会



春風薫る4月5日(火)の午後、学友会主催による新入生歓迎会が学生食堂にて開催されました。

受付入口では「ようこそ!四日市看護医療大学へ」という歓迎の意を表し、一人ひとりにプレゼントを手渡すなど、昨年までとは趣向を変えた形で行われました。歓迎の言葉やクラブ・サークルの紹介・勧誘等で親睦を深め合い、緊張気味だった新入生の表情も徐々に和らぎ、大学生活のスタートにふさわしい交流の場となりました。

東日本大震災義捐金について

本学では、震災発生後から教職員を中心に義捐金活動を行い、日本赤十字社及びあしなが育英会に各15万円を送金いたしました。

また、学友会主催の「東日本大震災復興支援プロジェクト」として被災地への応援メッセージをお届けしました。なお、今後も義捐金活動は、続けていきます。



教育後援会役員会・総会

5月28日(土)、本学の第1会議室において、平成23年度教育後援会役員会・総会が開催されました。

当日は、役員、顧問を含め20名程の小規模な会議となりましたが、佐竹会長のご挨拶で始まり、昨年度の事業報告および決算報告、役員選出、平成23年度の事業計画および予算案について審議され、すべて承認をいただきました。

また、質疑応答の時間を設け、参加された保護者の方々から質問をあげていただきました。やはり授業、実習に関する質問が多いようで、教育後援会顧問である学長、副学長、学科長より直接ご回答させていただく形を採りまして、質問された方々にはご納得いただけたのではないかと思います。その他にもさまざまな意見交換がなされ、内容の充実した有意義な会になりました。

ました。今後のご参加を心よりお待ちしております。



保護者懇談会

今年度で5回目となる教育後援会主催の「保護者懇談会」が、10月1日(土)に本学で開催されました。



午前の全体会では、河野学長より本学の教育の取り組みについて説明があり、続いて宮崎学科長より学生生活についての説明、鈴木研究科長より大学院開設についての説明がありました。その後の質疑応答では、保護者から様々な質問が出され、活発な意見交換がされました。終了後は会場を学生食堂に移し、昼食を兼ねて懇親会が行われ、保護者と教員、あるいは保護者同士が和やかな雰囲気の中、活発に交流する場面が見受けられました。

午後の部では、アドバイザーの教員による個別面談が行われました。アドバイザー制度とは、学生を15名程度の少人数グループに分け、担当する教員が学生生活全般をきめ細かくサポートする本学独自の制度で、個人面談では、学生の現状をよく把握している教員から、学業を含めた現状や今後のアドバイスなどを聞くことができました。

今後も保護者の方々にとって有益な情報を提供できる保護者懇談会にしていきたいと思っております。

オープンキャンパス

今年度のオープンキャンパスが、7月24日(日)、8月21日(日)に行われました。本学も完成年度を迎え、地元および近隣の高等学校からの関心も高くなってきたこともあり、両日の参加者は、昨年の参加者人数を大幅に上回る569名の方々にご参加いただきました。また、参加者の中には地元だけでなく、茨城、埼玉、千葉、高知、愛媛など遠方からの参加もあり、参加者の声を聞いてみると、特に本学育成会奨学金制度への関心が例年より高くなっているように感じられました。

当日の内容として、午前中の全体説明会では、学長の挨拶から始まり、四日市市健康部長から本学への支援制度などについてお話しをいただき、その後今年度の入試説明を行いました。学生食堂での昼食をはさみ、午後は、模擬講義、看護実習体験、施設見学など自由にイベントに参加いただき、大学の雰

囲気を感じていただく時間となりました。また、学生ホールでは、入試や奨学金などについて相談する個別相談コーナーのほか、今年度は本学在學生と直接話しができる「先輩と話そうコーナー」を設けたところ、受験勉強、大学での授業や実習などについて、熱心に質問する高校生で賑わっていました。

来年度は更に、充実したオープンキャンパスにできるように努めていきたいと考えます。



職員研修・活動について

過去4年間のFD活動を振り返って

学長・FD委員会委員長 河野 啓子

開学して4年が経過し、本年3月には初めての卒業生を世に送り出しました。その間、教育力と研究力を高めるためのFaculty Development(FD)活動に力をいれ、全教員参加を原則に、組織的な取り組みを行ってきました。来年度からは、新しいカリキュラムに則った教育を始めますので、その充実に資するため、初年度から現在までのFD活動を振り返り、今後のFD活動のあり方を考えたいと思います。

初年度(2007年度)・・・3回の研修会開催

(各回のメインテーマを以下に記します)

- 第1回「四日市看護医療大学の教育理念をベースにした教育体系の構築」
- 第2回「各科目・領域間の連携と統合をめざして」
- 第3回「教員、職員、学生による総合的な教育改善に向けて」

2年目(2008年度)・・・3回の研修会開催

- 第1回「本学の全領域における教育の概念枠組みと大学の教育理念との関連」
- 第2回「ヘルスプロモーション看護:理論と実践」
- 第3回「基礎セミナーI、IIの充実とアドバイザー制度の周知」
(学生委員会との合同企画)

3年目(2009年度)・・・2回の研修会開催

- 第1回「授業評価」(教務委員会との合同企画)
- 第2回「アドバイザー制度」

4年目(2010年度)・・・2回の研修会開催

- 第1回「教育力の向上」
ワークショップ:看護教育の質を高めるためにはどのような工夫が必要か
講演:教育者・指導者はどうあるべきか~フィジカルアセスメント教育を通して~
- 第2回「研究力の向上」
研究セミナー:質的研究の基礎
研究活動報告:社会的共通資本として期待される看護の課題

FD活動について(FD委員の立場から)

3月23日(水)に開催された平成22年度第2回のFD研修会についてご報告します。

当日は、「研究力の向上」をテーマに本学の老年看護学、濱畑章子教授に質的研究の基礎として「研究の問いからデータ生成、分析までのポイント」についてご講演いただきました。そこではなぜ質的研究が看護学に有用かの問いかけがあり、データ生成方法、分析、結果の機密性、倫理問題について基本的な説明から、実際に行った質的記述的研究3例について、具体的に解説をしていただきました。

その後、本学の看護管理学担当、草刈淳子教授に研究活動報告として「社会的共通資本として期待される看護の課題」についてご講演いただきました。そこでは過去50年間にわたるわが国における看護評価の歴史を概観するとともに今後の医療のあり方と看護の役割について提言していただきました。

研修会に参加した教職員は43名で、この研修会を通じて研究に対する視野が広がり、新たな活動に向けての動機づけになったとのこと意見もいただきました。

成人看護学 准教授 杉崎 一美

学生委員会の活動について

学生委員会委員長 堀越 フミエ

学生委員会は、学生支援センター長を兼務する学科長を含め6名の教員と教学課の職員1名の7名で構成されています。委員会の活動は、学生生活が豊かで実り多いものとなるように、学習環境づくり、健康管理、就職等の支援に努力しています。これらの一つに、アドバイザー制度があります。本制度は学生が学習する上で抱える様々な課題や問題の解決を手助けする相談先として用意されました。本制度がよりうまく機能するように、現在検討を重ねています。

教職員、ご両親のお力添えをいただき、学生一人一人が4年間の学園生活を通じて看護学の学習の充実はもとより、人格の陶冶に精励し、信頼の厚い看護専門職となるようお願いしつつ委員会活動を続けてまいります。

事務職員研修について

事務局次長 三宅 真一

本学の教育理念は、暁学園綱領「人間たれ」に立脚します。この4文字は広く深いものと解釈されますが明確な定義は示されておりません。各自で確立することが課せられます。そして得られた多様な人間観をもとに奥行きのある教育活動が展開されます。本学の研修は、この考えに沿って大学職員としての意識改革をメインとし、テクニカルなテーマをサブとして2本立てで実施されます。先回は、「大学職員としてのモチベーションの維持や資質向上」というテーマで福島一政氏(愛知東邦大学理事)にご講演いただきました。他に「コンソーシアム京都」の大学職員共同研修プログラムに参加してコミュニケーションスキルや論理的思考法の習得を図っています。

平成23年度 実習について

実習委員会委員長 赤井 由紀子

3年生の後期から4年生の前期までの長い実習が9月26日からスタートしました。昨年と今年で大きく違うのは、卒業生がいることです。実習前の打ち合わせ等で病棟に行くと、「先生!先生!…」と話しかけてくれるのが楽しみで、まだまだ、1期生は新人ですが、一生懸命頑張っている姿をみることができ、その成長に驚きと感動、少しですが(新人なので)安心感を覚えます。

3年生の皆さんは長期の実習に期待と不安で一杯だと思いますが大丈夫です!!

実習は教科で学んできたことの集大成です。これまでいくつものハードルを超えてきたのですから、時間がかかってもあきらめないことが一番大事なことです。実習施設との話し合いも充実し、指導体制も2年目に入り深まってきました。そして、今年からは、皆さんのそばには、皆さんのことを気にかけてくれる先輩もいます。実習で悩むこと、困ったことは、まず、声を出して担当教員、アドバイザーに相談してください。一人で抱え込まないことが実習を乗り切るためには大切なことです。



実習レポート (教員より)

基礎看護学 実習Iを終えて

講師 加藤 睦美

「患者さんの前に私一人で行けるのかなあ。どのような話をしたらいいのかなあ」と実習初日は、学生は不安顔です。学生は患者と会話ができ、看護援助が実施できた時は成功体験に酔いしれます。しかし、これだけでは終わりません。学生たちは自分が行った援助を振り返り、行ったことの意味を専門的な知識や根拠をもって考えます。その中で、自分の未熟な知識や技術に気づき、落ち込み、実習施設に来ることさえ躊躇します。でも、学生は自分自

身を見つめなおし、立ち上げてきます。実習が終了する頃には、「もっと実習したい」と凛とした自信に満ちた表情で話します。さらに、今後自分はどのような学習をしたらいいか発見し、歩みだします。雑草魂を感じます。基礎看護学実習で学ぶ内容は看護学の基礎です。学生の学びや気づきが看護職を目指す者としてだけでなく、人間として創造的に自律的に成長していくためのものであってほしいと望んでいます。

地域看護学 実習Iを終えて

助教 蓑田 さゆり

本学では、この実習はふれあい実習として、入学後の間もない時期に医療現場を体験するアーリーエクスポージャーを行っています。今年度も1年生118名が7月21日～22日、看護職が働く病院、企業、保健所、保健センター、老人保健施設での実習を体験しました。学生にとっては、入学から3カ月あまりでの臨地実習は大きな

プレッシャーであったことでしょう。しかし、地域の方々との視線を合わせ、腰をかがめる姿やたどたどしい会話にも真剣さが感じられ、看護職を目指す第一歩を踏み出すよい体験になったと思います。指導にあたってくださった方々やそこに関わった教員にとっても、新たに自分自身の姿を見直すチャンスにもなりました。

Report



基礎看護学実習I

2年生 紅林 洋輔

この実習では1週間というわずかな期間ではありましたが、一人の患者様を受け持たせていただきました。初日は緊張で何をしたいのか分からなく困ることばかりでした。緊張していたため会話がうまく出来なかったり、続かなかったりして患者様にも気を遣わせてしまっていたと思います。しかし2日目からは少しずつ緊張がほぐれ、これまでに学んできた知識や技術を活用して実習に取り組むことができました。

この実習ではまだまだ看護の専門的な面できちんとしたことを出来た自信はありませんでしたが、実習の雰囲気や患者様と深く接することができた経験は、とても勉強になりました。この実習で学んだことを今後の講義、実習に活かしていこうと思います。



地域看護学実習I

1年生 赤松 美佳子

今回の実習では、保健師と看護師の仕事について学びました。私は保健師の仕事について漠然としか理解していませんでしたが、実際に保健師の方にお話を聞いて、仕事の内容をより具体的に学ぶことができました。また病院実習では、看護師が働く実際の職場を見学しました。そこでは看護師と医師・薬剤師・栄養士など他職種との連携が見られ、看護師の仕事は他職種との連携があって初めて成り立つ仕事だということを知りました。また保健師と看護師の仕事は、患者様だけではなくその患者様の周りの人も対象に含め仕事をしていく職業だということも学びました。

今回の実習でこれらのことを学ぶことができたので、これからの学習に役立てていきたいと思っています。



海外 Overseas Training 研修

in カリフォルニア州立大学
ロングビーチ校

7月31日 ▶ 8月22日

みんなで
記念撮影。



本学との間に学術交流協定を締結しているカリフォルニア州立大学ロングビーチ校において、7月31日から8月22日までの23日間、2年生23名が参加し、海外研修を実施しました。

夏期休暇を利用したこの海外研修もこれで4回目となり、本年度もアメリカの看護事情について学ぶ看護研修と英語を学ぶ語学研修を中心にプログラムが展開されました。看護研修では、大学の看護教員や専門看護師による講義や現地の医療施設見学により、アメリカの看護の実情を学んでいます。日本の看護と比較することにより、今後の看護をより深く追究していく上で貴重な財産となる体験です。また、国際的な活躍のためには英語力の向上が不可欠ですが、語学研修では単に英語の習得を目指すだけでなく、コミュニケーション能力を高めることやその重要性についても学んでいます。

3月11日に発生した東日本大震災では、多数の人命が損なわれ、数えきれないほど多くの人々が心と体に大きな痛手を負いましたが、世界の国々から被災地に物心両面にわ

たる支援の手が差しのべられたことは記憶に新しいところです。この国際的な善意を目の当たりにしたとき、改めて人の心に国境を引くことなどできないのだと実感させられました。同時に、私たちに人としての生き方や心の持ちようを考える契機を与えてくれました。

本学の運営母体である暁学園では、「人間たれ」を掲げ、心豊かな人間の育成を教育目標としています。看護の道を志す本学の学生にこそ、この「人間たれ」の意味するところを深く考え、心豊かな人間に成長していってほしいと考えています。わずか3週間ほどの海外研修ですが、異国の地に身を置き、言葉や生活スタイルの異なる人々と接する異文化体験は、学生達の心をさらに豊かなものに昇華させてくれていると確信しています。国際交流委員会では、このような観点から今後も海外研修を継続させ、より意義のあるものへと向上させていく方針です。

(国際交流委員会)

平成23年度 海外研修報告 准教授 後藤 由紀

平成23年7月31日から23日間、本学2年生23名が、米国のカリフォルニア州立大学ロングビーチ校にて研修して参りました。期待と不安の入り混じった出発でしたが、ロサンゼルス国際空港に降り立った際の澄み渡る青空と活気に溢れた情景は、これから始まる研修生活への200%の期待へと変わりました。

学生は、語学研修、看護学部講義、病院や老人保健施設見学、そして、ビーチパーティ、野球観戦などの綿密に練られたプログラムにより、多くのことを学ぶことができたと思います。

研修や共同生活を通じて、英語学習のみならず、異なる文化や様々な価値観を理解すると共に、看護に対する幅広い知識の習得の機会となりました。これらの経験は、「一個人」としての自分の枠への気づき、その枠を超えようとする学生の行動形成にも繋がったと考えます。海外研修を終え、1回も2回も大きく成長した学生たちの今後にご期待ください!

研修 Report



2年生 森 勇輔

3週間という短い期間の海外研修でたくさんのことを学ぶことができました。まず大きな違いを感じたのは文化の違いです。初めての海外ということでも不安でした。今までだと怖いイメージしかありませんでした。実際には片言の英語しか話せないにもかかわらず、しっかりと聞いてくれて、質問に対しては詳しくわかりやすく教えてくれました。店に行くと発音が悪く通じない時には、それを聞いている人が代わりに言ってくれたり、とても親切でやさしさが感じられました。

大学での海外研修ということで医療に関しても看護のレクチャーや病院、施設の見学と充実した学びができました。アメリカの医療システムは医師が病院を借りて処置をしたり、手術の場合はその多くが、事前に外来で検査をして手術当日入院となり、手術後は手術室前のリハビリルームでの回復後すぐの退院になるという形になっています。日帰りで手術は日本では数少ないことですが、アメリカでは当たり前なのです。自宅での療養は、慣れた環境ということで回復力が上がると考えているからです。

日本と共通しているのは、看護師は「信用される職」であるということだと思います。看護師は患者様の生活の援助、療養上の世話をする職であり、他者に触れるという行為は相手の信頼があるからこそできるのではないかと思います。だからこそ看護師は信用できる職なのではないか。信用は、正直で思いやりがあり相手を尊敬することにより生まれるのではないかと思います。そのためにも、より高い知識と技術が必要となる。だからこそこれからの学生生活でより多くの知識を身に付け、確実に丁寧な技術を習得していかなければならないと思います。

今年は23人という少人数であったけれど、とてもいい経験ができたと思います。この海外研修で初めて話した人もいました。この機会があったからこそ話せた、仲良くなったという人もたくさんいました。この海外研修に参加して本当によかったと思います。一生の思い出になりました。

2年生 西森 晶子

この海外研修に参加して、私達はたくさんのことを得ることができました。最初は言葉も文化も異なるアメリカに戸惑い、日本を恋しく感じる時もありましたが、みんなと助け合うことで3週間を有意義に過ごすことができたと思います。まず言葉が通じない状態でのコミュニケーションの難しさを実感しました。最初は一言伝えるだけでも大変で会話が成り立ちませんでした。もっと英語が話せたらな、と何度も思いました。苦手意識が強かった英語も話さなくてはならない状況になると、自然と今までの自分の知識が出てきたり、言葉では伝わらない分、身振り手振りや表情を使ってコミュニケーションをとることの大切さを学ぶことができました。

また3週間という長い間みんなとの共同生活の中で、友達の大切さを感じることができました。みんながいたから3週間がとても楽しく意味のあるものになったと私は思います。アメリカでの生活の最終日、たくさんの感情が高まりみんな涙が止まりませんでした。この3週間は私達にとって宝物と言える日々でした。この経験を忘れることなく、今後の学習に励んでいきたいと思っています。



研修中は真剣に、
貴重な体験ができました。



みんなで、
楽しいひと時も!

クラブ紹介



●バスケットボール部

私達バスケットボール部は、現在1年生8人、2年生4人、3年生12人の合計24人で主に週1回体育館で活動しています。男女ともに楽しく活動しており、年に数回三重県鈴鹿市で行われているミックスの大会にも出場しています。まだまだ新しいクラブですが活発に活動していて、バスケットボール以外にも大学祭等において出店等も行いました。私達は学年に関係なく楽しくバスケットボールを行っているのも、もし興味がある方は気軽に遊びに来てください。

●Happy marriage

私たちは、日常生活に必要なマナーやメイクを勉強したいという思いからHappy marriageサークルを結成しました。活動としては、お食事会をしながらマナーの勉強や一人ひとりにあったメイクをみんなで研究しています。また、メンバーの交流を深めることを目的とし季節のイベント(お花見や海水浴など)も開催してきました。まだ結成したばかりで人数は少ないですが、みんなで仲良く、楽しんでサークル活動を行っています。今後は看護に活かせるようなマッサージの方法や手話などを学んでいきたいと考えています。



平成23年度 四日市看護医療大学 学生公認団体クラブ

体育会系

- 硬式テニス部
- ダンスサークル
- バトン部
- ゴルフサークル
- バスケットボール部
- バレーボール部
- 卓球部
- バドミントン部
- 陸上球技部

文化会系

- 家庭科部
- Happy Marriage(礼儀作法)
- 軽音楽部
- ボランティアサークル

学生相談室

毎週金曜日の午後2時～5時に、臨床心理士の先生による本学学生を対象としたカウンセリングを受け付けています。日常生活での問題や実習での悩み等、ストレスやトラブルがあれば、一人で悩まず相談してください。予約制ですが、空いていれば当日でも受け付けています。秘密は厳守されます。



保健室だより

10月28日と11月4日に、本学で学校医 伊藤クリニック 伊藤毅医師によりインフルエンザワクチン接種を実施し、全学生および教職員のうちの希望者計345名が接種しました。10月に四日市市内の小学校で、インフルエンザによる学級閉鎖があったと報道されましたが、本学では11月下旬現在では、インフルエンザ罹患者はみられません。冬季に1～3年生は実習、4年生は国家試験があります。日々の健康管理で体調を整え、それぞれの目標を達成してほしいと思います。



第1期卒業生
国家試験・就職進路で
大健闘!!

平成22年度

国家試験・就職進路状況

(平成23年3月卒業生)

第1期卒業生が、国家試験・就職進路ともに素晴らしい結果を残してくれました。

卒業生の皆さんのたゆまぬ努力と、「国家試験対策支援グループの教員を中心とした低学年からの国家試験対策」、

「アドバイザー教員や看護研究担当教員によるきめ細かい就職進路支援」といった本学の全学的な支援体制が実を結びました。

国家試験合格率

- ◆ 看護師: **99.2%** (受験者122名/合格者121名)
- ◆ 保健師: **87.5%** (受験者120名/合格者105名)
- ◆ 助産師: **88.9%** (受験者9名/合格者8名)
- ◆ 3資格(看護師・保健師・助産師)同時取得者: 7名

国家試験対策・就職進路支援について

■ 国家試験対策

年間10回の国家試験対策模試(看護師6回・保健師2回・助産師2回)を始め、夏季・秋季・冬季・直前期の国家試験対策特別講義、ガイダンスなどを実施し、4年生全員の合格を目指します。また、2・3年生対象にも夏季に特別講義と模試を実施し、学力の定着と国家試験への意識を高めるようにしています。

■ 就職進路支援

厚生労働省がまとめた「看護職員需給見通し」によると、今後さらに看護師の需要は増えることが予想されます。その一方で、医療業界では質の高い人材が求められる傾向にあります。本学では、質の高い学習や実習に加え、就職進路支援を通じて人間性を高め、学生の希望する就職が実現できるようバックアップしています。(就職ガイダンス・応募書類作成指導・添削・面接指導・相談受付等)

就職・進路状況

1.進路状況

項目		合計
卒業生		122名
就職	就職希望者	120名
	就職者	120名
	就職率	100%
進学	進学希望者	1名
	進学者	1名
	進学率	100%
その他		1名

2.就職先

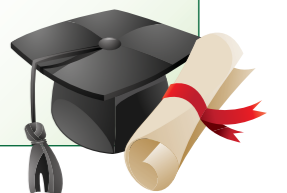
地域別就職先		施設名順不同
三重県	市立四日市病院・三重県立総合医療センター・三重大学医学部附属病院・三重病院・鈴鹿病院・松阪市民病院・四日市社会保険病院・いなべ総合病院・鈴鹿中央総合病院・みたき総合病院・山田赤十字病院・藤田保健衛生大学七栗サナトリウム・松阪総合病院・青木記念病院・亀山市(保健師)	
愛知県	名古屋大学医学部附属病院・名古屋医療センター・長寿医療研究センター・名古屋市立大学病院・一宮市立病院・名古屋第一赤十字病院・名古屋第二赤十字病院・中部労災病院・協立総合病院・大同病院・名古屋掖済会病院・海南病院	
三重県・愛知県以外		
千葉県	成田赤十字病院・千葉西総合病院	大阪府 大阪大学医学部附属病院・東大阪市(保健師)
東京都	順天堂大学医学部附属順天堂医院・杏林大学医学部附属病院・聖路加国際病院・NTT東日本関東病院	兵庫県 神戸赤十字病院
岐阜県	岐阜大学医学部附属病院・長良医療センター・大垣市民病院	鳥取県 鳥取大学医学部附属病院
静岡県	聖隷浜松病院・聖隷三方原病院	岡山県 川崎医科大学附属病院
滋賀県	市立長浜病院	沖縄県 沖縄赤十字病院

3.進学先

進学先名	ユマニテック助産看護専門学校
------	----------------

本年度 卒業式

平成24年3月12日(月)四日市都ホテルにおいて挙行する予定です。



テーマ
「HUMAN LINK
今しかできないこと。」



第5回
よんよん祭

2011.10.22~23



隣接する四日市大学と3回目の合同開催となった今年の「よんよん祭」は、1日目はあいにくの雨模様となりましたが、2日目は徐々に晴天となり一般の来場者の方も多く来ていただき、賑わいをみせていました。本学の学生達は、模擬店9店、ダンス3チーム、バンド演奏、献血、身体計測、男装女装コンテスト等を企画・運営し、若いエネルギーに満ちた大学祭となりました。

2年生(大学祭実行委員長)
伊藤 由衣

今年のテーマは東日本を襲った未曾有の大震災から話し合いを深め、「HUMAN LINK 今しかできないこと。」に決定いたしました。テーマの通り多くの学生が支え合い、学生一丸となって作り上げた大学祭だったと強く感じております。模擬店やダンス、男装女装コンテスト、コスプレコンテストなど、今しかできないことに精一杯取り組み、楽しむことができました。大学祭を支えてくださった皆様、ご来場いただいた皆様、本当にありがとうございました。

2年生(大学祭実行副委員長)
川北 奈津美

今年の大学祭は雨から始まりました。一般の来場者の方も少なく、模擬店を出店してくれた方にとってツイ出発となってしまいました。しかし、2日目の快晴と共に出店者の皆さんの士気も上がり、特に後夜祭でのピンゴ大会は寒い中多くの方に参加していただき、ステージと参加者が一体となって企画を盛り上げてくれたので、大学祭を楽しく締めくくる事が出来ました。雨にも負けず大学祭に参加していただいた事に感謝し、また、今回の大学祭で繋がった人との繋がりが今後も繋がっていく事を願っています。

社会貢献活動

◆みえアカデミックセミナー2011 2011.7.28
「場(家庭、職場、学校、地域)は人の育ちの豊かな空間」を開催しました。

平成23年7月28日(木)三重県文化会館レセプションルームにて、「みえアカデミックセミナー2011」の公開セミナーを開催しました。

「みえアカデミックセミナー」は、三重県内の高等教育機関と三重県生涯学習センターが主催し、「心豊かな人生へのアクセス」という全体



テーマのもと、各校が1日ずつ公開セミナーを担当するというものです。

今回は、近藤 信子特任教授が「場(家庭、職場、学校、地域)は人の育ちの豊かな空間」という演題で講演を行いました。

人間関係は空気のような掴みようのないもので、人は生まれると同時に人間関係という文脈の中に投げ込まれる。人生を豊かにする人間関係を作るにはどうすればよいかなどを参加者と一緒に考えながら分かりやすく説明しました。

当日は67名の皆様にご来場いただき、大好評でした。



◆平成23年度公開講座 2011.7.31
「スウェーデンにおけるがん患者のターミナルケアシステム」を開催しました。

平成23年7月31日(日)じばさん三重 5F 大研修室にて、平成23年度四日市看護医療大学公開講座「スウェーデンにおけるがん患者のターミナルケアシステム」を開催しました。

前半は、大阪府立大学 人間社会学部の渡辺 博明教授が「スウェーデンの暮らしと



福祉～政治学者の視点から」を、後半は、本学の宮崎 徳子教授が「スウェーデンにおけるがん患者のターミナルケアシステム」について、それぞれ講演を行いました。

今回のテーマに参加者の関心も高く、熱心にメモをとられていました。

アンケートでは、「政治の知識がないので、福祉のことがとても勉強になりました。」

「スウェーデンの医療・福祉に比べ、日本はまだ低レベルであることが分かりました。」

「ASIH(高度在宅医療)のようなシステム

が近い将来、日本でも設立できることを願います。私達、訪問看護師もそれに近づけるよう努力していきたいと思います。」などの貴重なご意見をいただきました。



≡ よっかいちキャンサーリボン実行委員会の活動に参加して ≡

私たち1年生3名と2年生3名は、四日市看護医療大学の学生として、8月26日より「よっかいちキャンサーリボン実行委員会」の活動に参加しました。

最初に、ララスクエアでのピンクリボン(乳がん)キャンペーンに参加し、次いで、鳥越俊太郎さんの講演会準備のための、会議に参加しました。11月11日は、鳥越さん自身の体験についてユーモアを交えて講演して頂きました。大学の講義では、患者様の生の声を聞く機会が少ないので、貴重なお話を伺うこともできました。また、実行委員として、講演会の司会や運営に携わる仕事ができ、本当に良い経験ができたと思います。今回の経験での学びを今後の実習等に生かしていきたいと思っています。



2年生 伊藤 由衣 加藤 愛 山田 百合園 1年生 上村 早紀 平田 亜美 横山 桜子

大学院開設記念講演会が開催されました

本年4月に開設された本学大学院の開設記念講演会が10月29日に開催されました。当日は、塚越フミエ教授の司会により進行され、河野啓子学長の挨拶に続いて、藤村龍子教授から講師の聖路加看護大学井部俊子学長の紹介があり、その後、井部先生には『大学院教育の創造』をテーマにご講演いただきました。

井部先生は、ご自身の経験から「臨床ナースからみて大学院とはどのようなところなのか」、また「臨床実践と大学院での学びは何がどう異なるのか」に対する見解を述べられるとともに、「臨床家こそ大学院で学ぶべきである」とのお考えや「大学教員にとって大学院とはどのようなところなのか」についても言及されました。



その後、文部科学省の第2次大学院教育進行施策要綱にも触れられ、「学位プログラムに基づく大学院教育の確立」「新たな社会の創造・成長を牽引する博士の養成」「社会との対話と連携による教育の充実と、学生が将来への見通しを持てる環境の構築」「大学院教育のグローバル化の促進」「専門職大学院の質の向上」などに対する自説を展開されました。

講演の後半では、井部先生が担当された大学院生の研究テーマの中から、「『やさしい』看護とは何か」や『承認』に対する研究指導について、週刊医学界新聞掲載の「看護のアジェンダ」の内容にも触れつつお話を進められました。その後、会場からの質疑にもお答えいただき、講演は終了となりました。

引き続き、鈴木敦子看護学研究科長より井部先生及び参加者への謝辞が述べられるとともに、専門領域・分野ごとの専任教員紹介が行われ、最後に山口鎮入試広報室課長補佐が大学院入試の概要を説明し、記念講演会は盛況裡に閉会となりました。

この記念講演会には、地域の看護職の方々や看護系大学、看護専門学校の先生方などを中心とした約120名にご参加いただきましたが、井部先生のお話は、聴講された方々に大学院教育の意義や看護の担うべき役割の重要性を再認識していただく有用な機会となったのではないのでしょうか。

2012年度 大学院入試概要 ※修士論文コース、専門看護師(CNS)コース共通

区分	募集人員	出願期間	試験日	合格発表
Ⅱ期 一般選抜 社会人特別選抜	10名 (1期募集人員も含む)	2012年2月1日(水)～ 2月13日(月)必着	2012年2月18日(土)	2012年2月24日(金)

- 事前相談 出願前、志望する領域・分野の研究指導教員と、研究教育活動について事前相談が必要になります。
- 入学資格審査 入学資格審査が必要な方は、出願前に、本大学院において、個別の入学資格審査を行い、入学資格認定の可否を決定します。なお、申請料は必要ありません。

入学資格審査申請期間および審査発表

区分	入学資格審査期間	審査発表
Ⅱ期 一般選抜 社会人特別選抜	2012年1月10日(火)～1月24日(火)必着	2012年1月27日(金)

選抜方法 ※修士論文コース、専門看護師(CNS)コース共通

区分	試験科目等
Ⅱ期 一般選抜 社会人特別選抜	・専門科目(90分) ・英語(60分) ・面接 ・出願書類

- ※専門科目は、必須「看護共通」のほか、「志望する分野が指定する科目」を選択し、受験してください。
- ※英語は、一般選抜と社会人特別選抜で問題が異なります。なお、英和辞書1冊の持ち込みを可とします。(電子辞書類は不可)

試験会場

四日市看護医療大学／三重県四日市市萱生町1200

入試方法・日程などは2012年度学生募集要項で必ずご確認ください。